



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。4月から新しい学校生活とともに部活動も始まります。軽音楽部は全国で入部者数が増えている、近年人気が高い注目度ナンバー１の部活動です。活動内容は学校によって様々ですが、人気の秘密の一部を紹介します！

音楽は私たちの生活に潤いを与え、心を豊かにしてくれる素晴らしいものです。きっと皆さんいろいろな場面で音楽と出会い、感動し、「今度は自分が演奏する側にまわりたい!」と思ったのではないのでしょうか。自分の歌や演奏が誰かの心を動かしたり、感動させることができれば素敵ですね。でも、それはプロのアーティストに限らず、皆さんにだってできること。音楽は聴くことはもちろん、歌ったり、演奏することも楽しく、素晴らしいものなのです。

軽音楽部は「部活動」

よく誤解されるのですが、軽音楽部の活動と、いわゆる「高校生バンド」は似ているようで、違います。軽音楽部はバンドが集まってできているのではなく、部活動の中でバンドに分かれて活動していくものです。もちろん高校生がバンド単位で活動するわけなので「高校生バンド」には変わりありませんが、軽音楽部は部活動なので、学校や周囲に認められて教室や備品を使うことができ、音楽を通して成長する

ことが目的です。学外で活動している高校生バンドとは、そもそも目指すものや活動内容が違うのです。

高校の軽音楽部では楽器の練習をしたり、バンドで楽曲を演奏するだけではなく、部全体で様々な目標に向かっていきます。文化祭や定期演奏会でのライブ、他校との合同演奏会やコンテストへの参加、クリニックやセミナーの受講、夏合宿の実施…など、部活動だからこそできることがたくさんあります。

新しいことを始める時は誰でもドキドキするものです。不安も多いと思いますが、部活動の良いところは先輩や顧問の先生、学校によってはコーチなどの指導者がいることです。練習の方法からトラブル対処のアドバイスまで、悩みごとができて頼れる人たちがいるということが、部活動であることの最大の強みです。

軽音楽部で学べること

軽音楽部は文化部に属します。軽音楽部が他の部活動と大きく違う点は「クリエイティビティ」と「チームワーク」の両方を学べることです。基本的に、

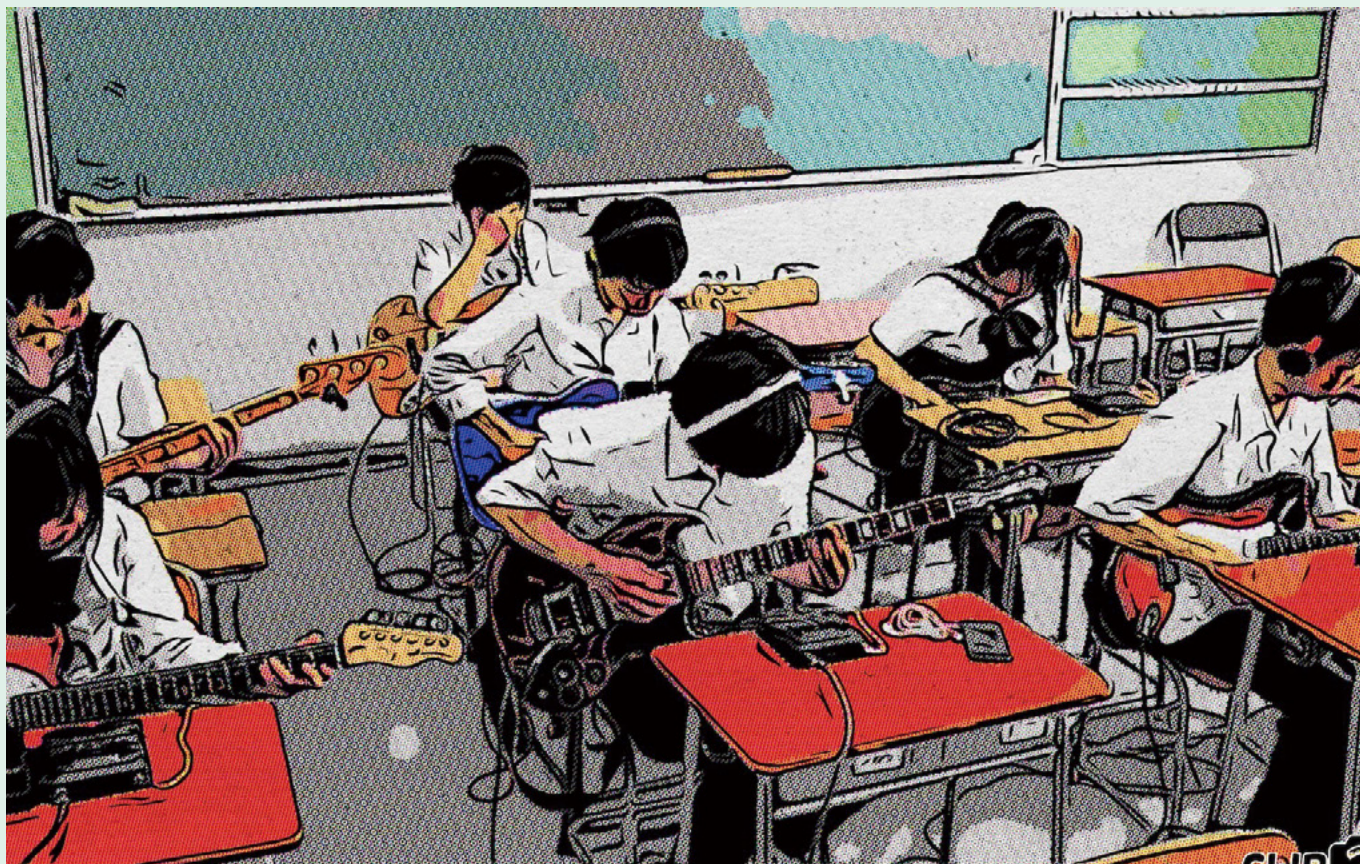
運動部にはクリエイティビティというキーワードはありません。文化部はチームで何かを生み出すというよりも、個人での創作活動がメインです。同じ音楽系部活動である吹奏楽部や合唱部ではチームとしての連帯感や協調性は育まれますが、創作性はありません。一方、軽音楽部は「バンド」という少人数のチームで、コミュニケーションを取りながら、自分たちの手で音楽を作り上げていくところが大きな特徴です。

これからの社会では、記憶型・受動型タイプの人間ではなく、自ら考え、周囲の人たちと協力しながら実行していける力が求められています。運動部と文化部の良いところを持つ、クリエイティビティとチームワークの両方を兼ね備えたハイブリッドな部活動、それが軽音楽部の魅力であり、ポピュラー・ミュージックの楽しさなのです。

音楽は一生ものです。軽音楽部で得たことは卒業した後も必ず活かされ、人生にきっと素敵な華を添えてくれるでしょう。ぜひ皆さんも軽音楽を通して、たくさんのことを経験し、充実した高校生活を送ってください。



歌や楽器の練習に取り組む



軽音楽部で使用する楽器は、主にギター、ベース、ドラム、キーボードです。パーカッションをはじめとした他の楽器を使用しても構いませんが、メインとなるのは上記の4つの楽器です。そこにボーカルが加わりますが、ボーカリストとして歌だけを歌うことも、ギターやベース、ドラムなどを演奏しながら歌うことも可能です。学校によっては「(卒業するまで) 私はギター」「僕はドラム」…という風に担当楽器を固定するのではなく、1学期や2学期などの学期ごとや演奏する楽曲ごとに担当パートを変えたり、バンドを組み直すところもあります。当然ながら、各楽器の練習量や苦労は増えますが、複

数の楽器を練習することで相乗効果が起こり、音楽スキル全体の向上につながると言えます。

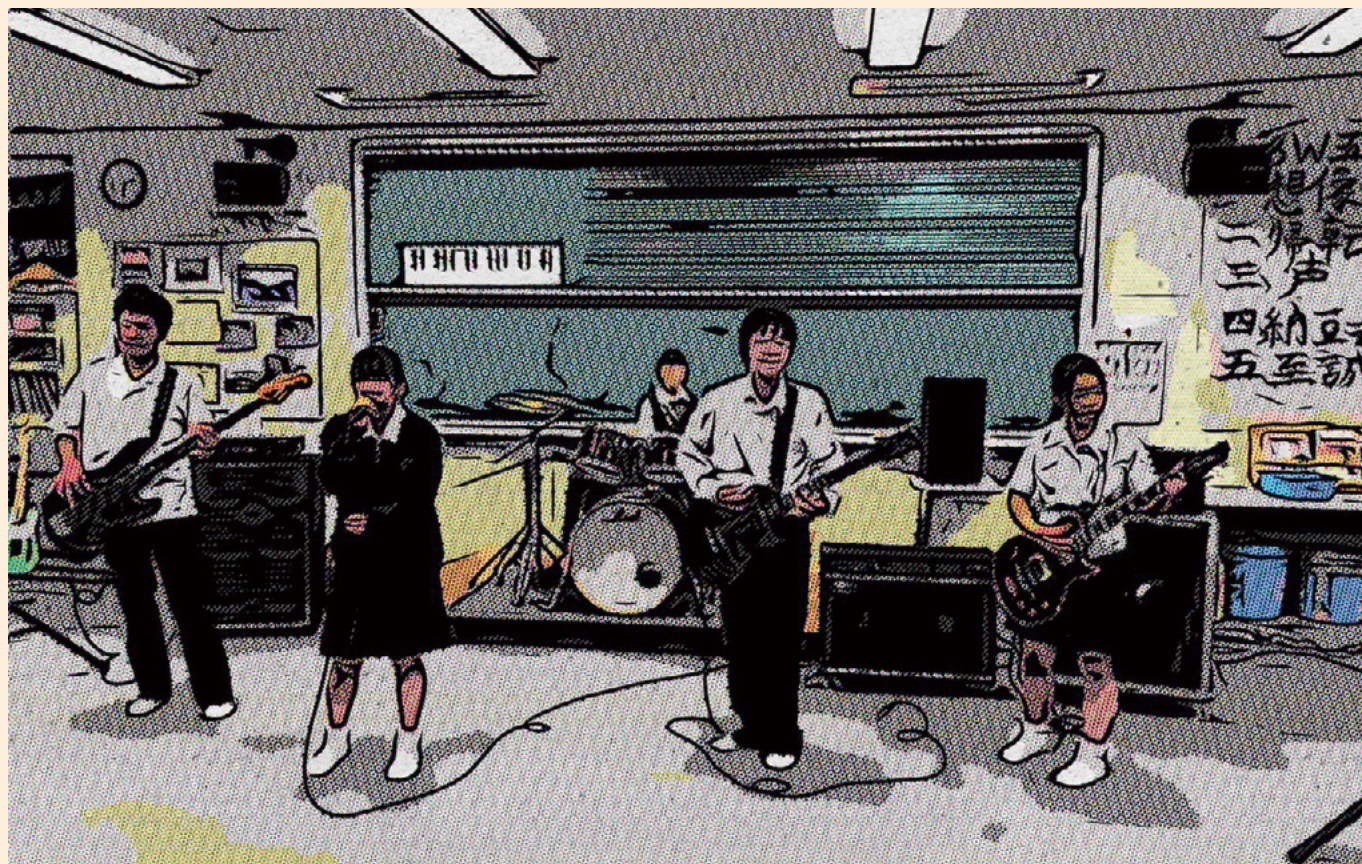
軽音楽部の中には、入部して初めて楽器に触れる人も多いと思います。特にポピュラー・ミュージックで使う楽器はドラム以外は電気を使用するので、楽器の構え方や音を出す方法、音作りや周辺機材の使い方も学ぶ必要があります。機材の扱い方など、わからないことは先輩にどんどん質問して欲しいのですが、歌や楽器の技術的な上達は個人練習の頑張り次第です。テクニックの習得には時間がかかりますが、続けていれば、必ず上達します。焦らず、1つひとつ身につけていきま

しょう。

全国の軽音楽部の中には、バンドごとの練習の他に歌や楽器の実技練習をメニューに加えている学校もあります。パートごとに分かれたり、部員全員で「全体練習」を行っている学校も珍しくありません。その内容はメトロノームを使用したパート別の基礎練習や発声練習、リズム練習、音楽理論の勉強、音作りの研究などです。

部活動として軽音楽に取り組む最大の利点（メリット）は、様々なアドバイスや指導を先輩たちから受けられることと言えます。他力本願ではいけませんが、頼りになる相談相手がいることは、とても心強いものです。

バンドを組み、合奏する



軽音楽部では、部員同士でバンドを組み、人気の邦楽曲や洋楽などの既存曲をコピーして演奏したり、オリジナルの楽曲を作词、作曲したりします。メンバー間でコミュニケーションを取りながら演奏をまとめていくことは、軽音楽部での活動の大きな目的の1つです。みんなで音を出した時の感動と楽しさは何ものにも代えがたいもので、他の部活動や日常生活では、なかなか味わえない貴重な経験と言えます。「そんなことは軽音楽部に入らなくてもできるでしょ…」と思う人もいますが、学外で活動する場合、アンサンブルのまとめ方や曲作りの方法、機材の使い方から音作りのコツ、効果

的な練習方法などを学んだり、先輩からアドバイスや講評をもらうことはできません。練習場の時間配分は部員数やバンド数、練習場の数にもよるため、学校ごとに違いはあると思いますが、部活動である軽音楽部では、先輩の演奏やいろいろなバンドの様子を見学できるメリットもあります。

バンドの組み方も学校によって様々です。好きな人同士の場合もあれば、先輩や顧問の先生のアドバイスを受けながら決めていくこともあります。また、バンドを固定せず、発表会や大会ごとに組み直すというスタイルを採用している学校もあります。演奏する楽曲についても、メンバーで自由に決め

る場合もあれば、先輩や顧問の先生から課題曲を提示してもらえることもあります。さらに、既存曲のコピーが推奨されているのか、オリジナル曲の制作が推奨されているのかも様々で、学校のカラーや伝統、地域性などもあるようです。

どのようにバンドを組んで、どんな楽曲に取り組もうとも、バンドでは自分の意見をメンバーに伝え、話し合ってまとめていくことが大切です。一生懸命に取り組むほど、意見が衝突することもあると思いますが、そんな時のために先輩や顧問の先生がいてくれるのも部活動であることの利点と言えます。

演奏会やコンテストへの参加



日々の個人練習やバンド練習で積み上げてきた成果を発揮する手段の1つが「ライブ」です。軽音楽部では、文化祭や新入生歓迎会、卒業ライブ、校内ライブや定期演奏会、他校との合同演奏会、各種コンテストや地域のお祭りなど、様々な演奏の機会があります。最初は初心者で軽音楽部に入部したとしても、バンドで1曲でも演奏ができるようになれば、それらのステージに立って演奏するチャンスは誰にでもあるのです。

最も身近な「校内ライブ」は部員はもちろん、クラスの友達や先生方に演奏を見て(聴いて)もらう絶好の機会です。軽音楽部による演奏が文化祭の

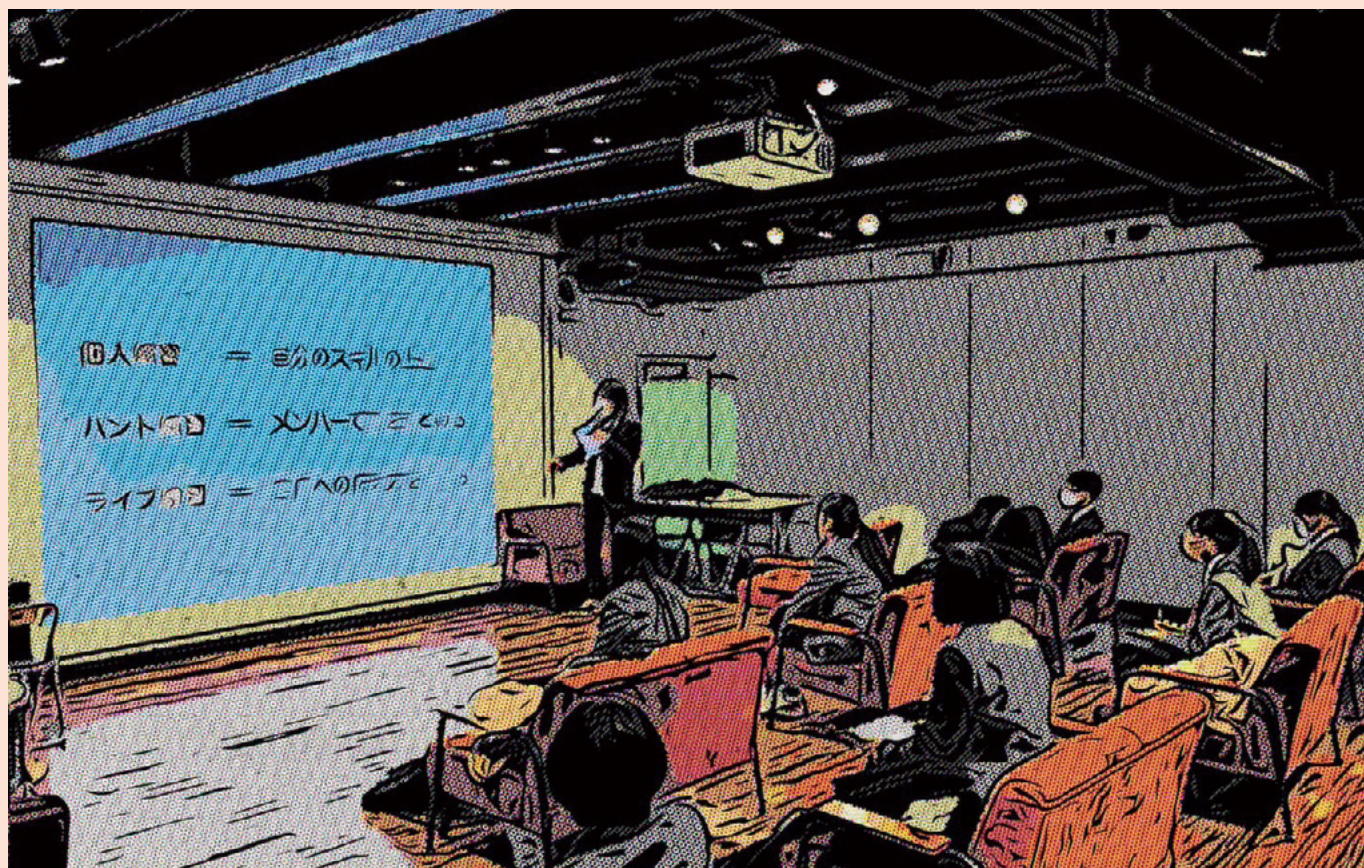
目玉になっている学校も少なくないと思います。まずは、このステージを目標に頑張りましょう。他校との交流が盛んな学校であれば、自校で合同演奏会を主催したり、他校へ出向くことがあるかもしれません。他校のバンドの実力に触れ、お互いを高め合うことができます。

ライブを開催する際には演奏だけでなく、セッティングシートの準備や音響、照明、楽器&機材係といったスタッフの仕事を始め、出演順の検討やタイムテーブルの作成、司会による進行管理、お客さんの誘導、ステージ&会場作りなど、制作側の仕事も軽音楽部

員が分担して行います。他校の生徒を迎えるのであれば、誘導や控室の準備も必要です。部員全員が1つのチームになって、音楽イベントに関わる様々な仕事を分担します。大変に感じるかもしれませんが、イベントが無事に終わった時の達成感は格別なものです。

また、近年では軽音楽コンテストや各種大会に出場することを目標の1つとしている学校が多くなってきました。高等学校文化連盟軽音楽専門部や軽音楽連盟が設置されている都道府県では、それらが主催するコンテストや大会が行われ、勝ち上がれば「全国大会」と銘打った大きなステージで演奏することもできます。

講習会やクリニックの受講



文字通り、軽音楽部は「音楽」をする部活動です。人気の邦楽曲をコピーしたり、自分たちで作詞、作曲をしたオリジナル曲を披露するなど、思い描くような音楽をバンドで奏でられるようになるためには、歌や楽器のテクニックだけでなく、様々な知識が必要です。それは楽器の特性や機材の使い方に始まり、音作りのコツや楽器や機材のメンテナンス、あるいは音階や和音といった音楽理論やコードネームの解釈、コード進行についてなど、多岐に渡ります。さらに、普段の練習方法や基礎トレーニングから作詞や作曲方法、アンサンブルのまとめ方、ライブ前の心得や準備しておくべきことな

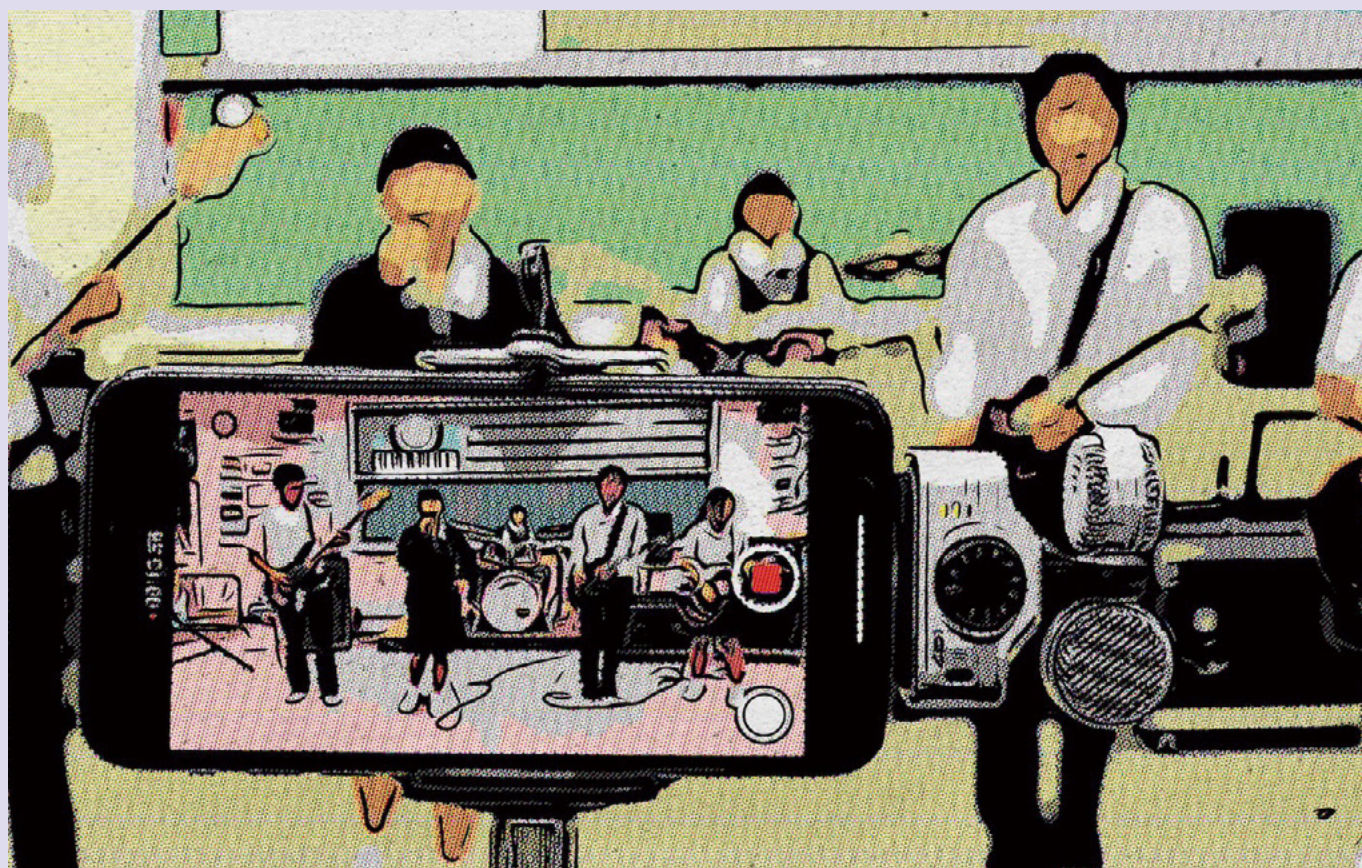
ど、学ぶものや知っておきたい知識はたくさんあるのです。

現代では、インターネットで検索すれば、これまでの事例やいろいろな答えが出てくるかもしれませんが、ピンポイントで痒いところに手が届くような、自分にとって本当に必要なことは、なかなか見つかりにくいものです。なぜなら、それらはほとんどの場合、軽音楽部という部活動で音楽を学んでいる高校生に向けた情報ではないからです。

高等学校文化連盟軽音楽専門部や軽音楽連盟が設置されている都道府県では、その規模や回数はまちまちですが、ボーカルやギター、ベース、ドラム、キー

ボードなどの各パートごとの技術講習会やバンド単位のクリニックが定期的に行われています。そうではなくても、学校独自に音楽専門学校や音楽教室などから講師を招いて、セミナーを行っているところもあります。「今、聞きたい話」をプロのミュージシャンや音響エンジニアといった専門家から直接聞いたり、アドバイスがもらえるのはとても貴重なことです。部活動であることの大きなメリットの1つと言えるでしょう。軽音楽専門部や軽音楽連盟などがなく、なかなか技術講習会やクリニックに参加する機会もない学校さんは、ぜひ当協会までお気軽にご相談ください。

バンド演奏を録音し、形に残す



日頃の練習の成果を発揮し、披露する場所は定期演奏会やコンテストなどの場での「ライブ」だけではありません。学校によってはバンドとしてのレベルアップを図る目的をはじめ、オリジナル曲を音源（形）に残す目的で「レコーディング」を行っているところもあります。「レコーディングなんて、とても…」と、ハードルが高く感じるかもしれませんが、近年では、意外と簡単に自分たちの手でレコーディングを行うことができるのです。

ステップとしては、①歌と楽器の演奏を録音する→②ミックスして、音源データにする…これだけです。以前は、③として「CDに焼く」という作業が

当たり前でしたが、音源データのままで聴くことができる現代では、CDにする／しないは自由です。CDに封入するジャケットやブックレットの作成、CDのプレスにはコストも時間もかかりますが、CDとして形に残しておけば、軽音楽部で活動した思い出にもなります。ブックレットに写真も載っていれば、さらに良い記念になるでしょう。

一方で、レコーディングの効果は「思い出作り」だけではありません。普段の練習にはない緊張感がプレッシャーに打ち勝つ心を強くし、普段は、なおざりにしていた苦手な部分やウィークポイントへの対処などを個人的にも、

バンドとしても改善していくことができます。録音した自分たちの演奏を客観的に細かく聴き返すことで、いつもの練習では気がつかなかったことも発見できるので、バンドの演奏技術が格段に向上します。

とはいえ、プロ・クオリティの作品を制作する必要はないので、普段使用している音響機材とスマートフォンやタブレット端末があれば、十分にレコーディングを行えます。パソコンがあれば、音楽制作ソフトを使用した高度な作品づくりもできますが、必須ではありません。まだレコーディングを行っていない学校は、ぜひこの機会に取り組んでみてください。

合宿に参加し、連帯感を高める



学校によっては、夏休みや春休みなどの長期休みを利用して、「合宿」を行っている軽音楽部が少なくありません。「もっと練習時間が欲しい」「たくさんバンド練習がしたい」「メンバー同士や部員同士の絆を深めたい」といった数々の希望をすべて叶えることができるのが、合宿なのです。

合宿に参加することで得られるものは「個人のスキル」「バンドの一体感」「楽器や機材などの知識」「部員同士の関係の向上」など、多岐に渡ります。学校で行っている普段の部活動とは異なる環境は、自分自身の音楽や楽器への関わり方をはじめ、メンバー同士のつながりを良い方向へと導いてくれます。

そして、合宿に参加するにあたり、最大のメリットと言えるのが「時間の確保」です。数日間、音楽以外のことを考えなくても良い期間や思う存分に個人練習やバンドでの合わせ練習に没頭できる時間は、合宿でしか得ることができません。練習後は休憩スペースなどで反省会を行い、次に向けた目標を設定したり、意識を高めることが成長につながります。

もちろん先輩や後輩、自分のバンドメンバー以外の部員との交流も新たに生まれ、軽音楽部全体の連帯感も高めることができます。また、集団行動をする中でしか生まれないコミュニケーションや関係性が育まれ、部員同士や

バンドメンバー間の絆を強めてくれるでしょう。

大会出場の常連校は大会前の最終調整のため、部員数が多い学校は連帯感を強めるため、あまり練習ができない環境にある学校は時間を気にせずに練習するため…など、目的は学校によって様々ですが、全員で同じ釜のご飯を食べ、朝礼や夕食後に報告会や反省会を行ったり、いつもよりも少し長めのミーティングを実施することは、部活動としてまとまっていくための大切なプロセスとなります。それに加えて、単純に軽音楽部のみんなで過ごした合宿の日々は高校生活の大切な思い出の1つとなるでしょう。